

太平洋イカ類漁場調査

(抄 録)

川 村 俊 一 ・ 大 川 光 則 ・ 塩 垣 優

1996年6月～11月に東経170度以西の太平洋海域で、試験船東奥丸（140トン）、開運丸（208トン）でスルメイカ・アカイカの漁場調査等を実施した。

スルメイカ

1996年の本県太平洋沿岸域に來遊したスルメイカは、今期は6月17日に白糠、18日に八戸で漁期が始まり好調に推移した。

太平洋系スルメイカは1989年以降増加傾向にあり、1996年の八戸、大畑、白糠3港の小型釣り漁船によるC P U E（1隻1日当たり漁獲量）は1989年以降では最高値を示した。

一方、近年底引き網、まき網など釣り以外の漁業による漁獲の占める割合が増加しており、1996年の太平洋側でのスルメイカの推定水揚げは釣り漁業を上回ったことから、今後その操業、漁獲実態の把握が必要である。

アカイカ

1996年のアカイカの原魚換算漁獲量は48,000トン余りであった。

アカイカについては、流し網のモラトリウムによって、1993年以降釣り漁業の見直しが行われ、1994年の原魚換算水揚げは71,000トン余りで、漁場一斉調査等の漁場調査結果から、釣り漁場に來遊したアカイカ資源自体は比較的大きいものであったと考えられたが、その後は漸減少傾向にあるものと考えられる。

発表誌名：平成8年度イカ釣り漁場開発調査資料22号（平成9年5月）

平成8年度外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する生物測定・標識放流海洋観測結果基礎資料集（平成9年5月）青森県水産試験場